

本科講座 18 総勘定元帳

ねらい 総勘定元帳の内容を理解する。

基礎講座でも総勘定元帳は学習しました。ここでは、もう一度確認の意味を含めて学習しましょう。

総勘定元帳とは、あらゆる勘定科目を勘定科目ごとに一つにまとめた帳簿のことをいいます。実務では、仕訳帳に仕訳を記入した後、総勘定元帳へ記入するのですが、仕訳帳から総勘定元帳へ記入することを転記といいいます。転記を行うことにより、今までは取引を仕訳の日時順に記入してあった仕訳帳から、勘定科目ごとにまとめたものにするのです。これによって、勘定科目ごとの内容（残高）が分かるようになります。総勘定元帳で重要なのは、仕訳から、正確に転記が出来るかの1点に尽きます。（右図のように機械的に覚えるのを勧めます）

総勘定元帳の形式は標準式と残高式の2種類あります。簿記の試験問題を解く場合、簡略化してTの字を使って総勘定元帳を作成する場合がありますがこの場合は、標準式の総勘定元帳を簡略化したものといえます。（簡略しているのは、罫線だけでなく、取引の日時も解答する場合に必要な時が多いため、よく省かれます。）

例1 下記の仕訳をもとにT字での総勘定元帳を作成しなさい。

(借方) 現金 30,000 (貸方) 売上 30,000 (取引が12月1日)
 (借方) 備品 5,000 (貸方) 現金 5,000 (取引が12月9日)

総勘定元帳		現金	
12/1 商品	30,000	12/9 備品	5,000
売上		備品	
12/1 現金	30,000	12/9 現金	5,000

標準式の記入例

現金

平成14年	摘要	仕丁	借方	平成14年	摘要	仕丁	貸方
12	1	売上	30,000	12	9	備品購入	5,000

残高式の記入例

現金

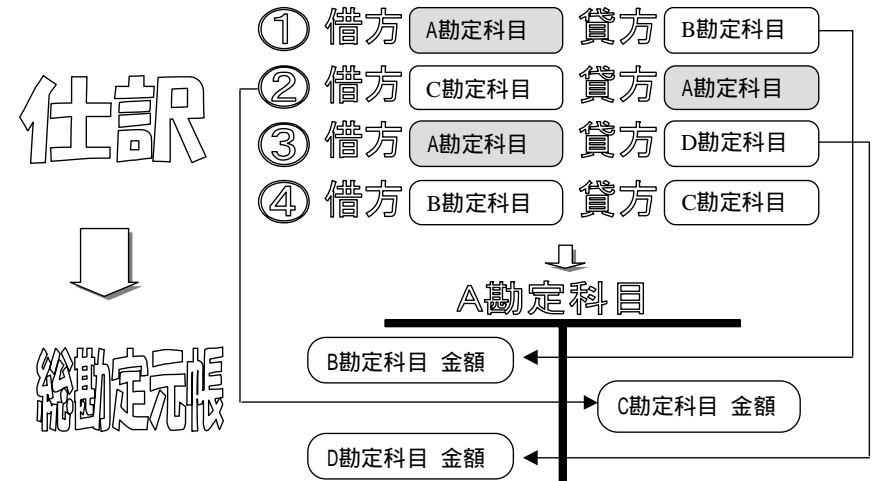
平成14年	摘要	仕丁	借方	貸方	借・貸	残高
12	1	売上	30,000		借	30,000
12	9	備品購入		5,000	借	25,000

転記の方法（仕訳から総勘定元帳へ）

総勘定元帳作成手順（勘定科目Aで作成の場合）

（他の勘定科目でも考え方は同じ）

1. Tの字を書いて勘定科目(A)をTの字の上に記入(Aの勘定科目が現金ならば現金と記入)
2. 元帳を作る科目を抽出(ここでは①②③)(仕訳の際にA勘定科目が発生する仕訳のみを抽出)
3. 転記の際、仕訳時に借方にある勘定科目は総勘定元帳では貸方へ記入(ここでは②が対象)
4. 転記の際、仕訳時に貸方にある勘定科目は総勘定元帳では借方へ記入(ここでは①、③が対象)



仕訳から総勘定元帳への記入は確実にマスターすること